

2日目を迎えた「ひやくまん 穀（こ）ブレゼンツ第34回ツール・ドのと400」は18日、参加者が青空の下に広がる能登の海原を眺めながら、3日間で最長となる道のりを疾走した。チェックポイントでは能登牛など地元の味覚が振る舞われ、ライダーたちが里山里海の美と味を満喫した。

【1面に本記】

## 地域の味堪能

3日間で能登半島を一周するチャンピオンコースには、本紙で「人生、妙なり」を連載するエッセイストで女優の「青妙（あおたけ）さんがゲスト参加した。

2017年以来、2度目の参加となった「青妙さんは、奥能登の風光明媚な景色と、コース周辺で住民がライダーを歓迎する姿に感じ入り「日本の景色とホスピタリティーを持った大会だ。ぜひ世界に発信していきたい」と思った」と振り返った。

台湾人の父と中能登町にルーツを持つ母の間に生まれた「青妙さん。17年の時に

## ツール・ド・のと2日目

# 晴天青海 石川の美景疾走



はコースに含まれていなかった中能登町を走る19日の最終日に向け、参加する人に中能登の良さを感じてほしいし、私も楽しんで走りたい」と意気込んだ。

大会は2日連続で好天に

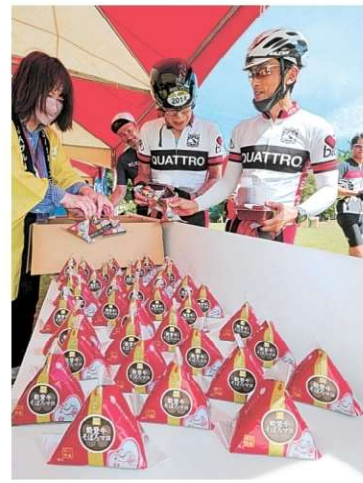
恵まれ、ほかの参加者にも充実の笑顔が広がった。七尾市の谷田登さん(50)は「みんなで一緒に走るのが本当に楽しかった。アップダウンがきつかったけれど、仲間と沿道の応援のお

かげで乗り切れた」と満足そうに話した。

おにぎりに舌鼓

コース上の各ポイントでは、石川県産米「ひやくまん穀」を使ったおにぎりが

能登島大橋を走り抜ける出場者  
—七尾市内



◀ 出場者に配られたひやくまん穀のおにぎり  
—能登町内浦総合運動公園

配布された。18日は昼食会場の内浦総合運動公園（能登町）などで、能登牛などさまざまな食材を使ったおにぎりが並び、出場者が舌鼓を打った。

おにぎりはJAグループ石川が提供した。昼食には能登牛弁当、ゴール会場ではカニカマなどが振る舞われた。

自衛隊が後方支援

初日に続き、2日目も陸上自衛隊金沢駐屯地第14普



美しい景色に笑顔を見せる「青妙さん」—能登町内

通科連隊の隊員が自転車や物資の運搬に協力した。最終日も参加する。